

「森地区のいいところ」

私が住んでいる、森地区では子どもからお年寄りまでが参加できる、いろいろな行事があります。

その中で私が一番いいと思っているのは、地域をきれいにする活動です。私の地域では、年に2回くらい地域の道路や川のごみ拾いをします。道のごみを拾うと、たばこのすいがらが多いです。たばこをすったら道に捨てないでほしいと思います。でも、おかしにくずも落ちているので、それは私たちも気をつけていきたいと思います。

また、去年から森地区を流れている川に入り、ごみを拾う活動も始まりました。私は、川に入るのは初めてで、入る前は「ごみがたくさんありそうできなかったいなあー」「つめたくて、めんどくさい」と思っていました。大人の人の人といっしょに長ぐつをはいて、ふくろとひばさみをもって入りました。思った通りごみがたくさんおちていました。特に、あきかんやプラスチックのごみが多かったです。ふくろがいっぱいになりました。深いところでは、長ぐつに水が入っていやだなあーと思いました。ごみが少ないところには、カニなどがたくさんいて、きれいだなあーと思いました。川に入る前は、きたないと思っていた

児嶋千尋

と思い、これからも続けていこうという気持ちになります。これからも自分が住んでいる地域をきれいにしていきたいです。

その他にも、森地区のみんなでなたねを育てて、種をとり、油をつくります。みんなで畑に行つて、種をつかんでまきます。2月くらいから花が咲きます。なたねを切るのは、大人の人の仕事だけど、切ったなたねから種をとるのは、私たちがとります。黒くて、まると、小さい種です。米の袋5袋分くらいとれます。その種を油にして、夏に公民館で地域の人を作った野菜と油で天ぷらを作ります。天ぷらには、からいもやいんげんやナスなどがあります。私たちは地域のおばあちゃんたちから野菜の切り方を教えてもらいます。その後は、お母さんたちとつくえをだしたりおしゃべりをしたりして、まっています。天ぷらが運ばれて来て、子どもたちが地域の人の前で自こしようかいをします。その後は、みんなで天ぷらを食べながらおしゃべりをしたりします。みんなで作った天ぷらは、とてもおいしいです。

その他にも森の公園で夏祭りをしたり、スポーツの森でグラウンドゴルフをしたりして、地域の人々と交流をしています。

私は子どもからお年寄りまでながよくて、いろいろな活動をしているこの、森地区が大好きです。

これからも、このような活動をうけついで、地域の人々と交流を続けていきます。

地域の愛情が育んだ 新しい地域愛

この作文は、平成21年「明るい社会と子どもの未来を創る」運動推進大会作文表彰小学生の部で最優秀賞を受賞した文章だ。読むと、児嶋さんの森地区に対する思いと地域の皆さんが子どもたちに対して持っている愛情が切実に伝わってくる。また川や道路のごみ拾いや菜種油を使った天ぷらの食事会、夏祭り、グラウンドゴルフなどに参加していることが分かる。この活動は全ではないが、地域福祉の活動の「座談会」から生まれたものだ。

子どもたちをつなぎ、世代をつないだ森地区の活動。その地域で行われている「地域福祉」というものは、何なのだろうか。森地区の活動を、区長の思いを、聞いてみる。

お父さんとお母さんが、いろんなイベントに連れてってくれました。一番楽しかったのは、夏祭りです。ステージで踊ったり、出店を手伝ったり…これからも行きたいと思っています。

森地区で、好きなところは「みんなが仲良くしていること」です。おじいちゃん同士が仲良くしているのを見ると、とってもうれしいです。これからも森に住み続けたいと思っています。

大津中学校2年
こじま ち ひろ
児嶋千尋さん(森)



森地区は「元気モリモリ」

平成17年度から地域のふれあいサロン活動を続けていた森地区は、平成18年度から町の地域福祉推進のモデル地区として指定を受け、住民座談会を開催するようになった。座談会を重ねる中で掘り起こされた地域の困り事を区民で共有するために、区内中学生以上を対象に住民アンケートを実施。その結果をもとに小地域福祉活動を行う町内で最も長い活動をしている地区だ。

活動の実績として、一人暮らしの高齢者の緊急連絡先などを登録した「元気！もリモリふれあいカード」がある。このカードは、本人のほかに関長や民生委員が保有し、いざという時に必要な情報がすぐ分かるためのものだ。また、毎月第2木曜に実施の「公民館開放フリーサロン」は、毎月第4月曜開催の「地域のふれあいサロン」と共に地域住民の集いの

場となっている。さらには区民全てを対象にした「緊急時避難カード」(もリモリカードの簡易版)も発行し、支え合いの仕組み作りが着々と進められている。

森地区では、小地域福祉活動を進めていく上で、要となる福祉の話し合いの場「座談会」の名称を、かつての呼び名であった肥護木(こもろぎ)の郷にちなんで「肥護木会」と名付けた。肥護木会は「地域の福祉についてみんなで考える会」として、区民に浸透している。

モデル地区が終了したら終わりではなく、終了後も小地域福祉活動実践区として、地域福祉計画等推進委員会の事務局が関わり、現在も継続した支援を行っている。

さらなる地域力の向上を

「地域福祉のきっかけはふれあいサロンでした」と話す森地区の児島区長。平成18年度から始まった地域

福祉推進のために老人会の加入を勧めた。加入者数は45人以上になった。それが良かったと児島区長は話す。

住民アンケートで「空き家が多いので何か活用ができないか」との意見があった。空き家を活用することは難しいので、結果的に「公民館開放フリーサロン」を開催することになった。アンケートの結果を生かした活動だ。

児島区長には、夢がある。区費をゼロにしたいという夢だ。細かいことは行政に頼らずに地域でやっていきたい。地域のつながりを強化したい。そのために夏祭りなどを開催している。

活動も今年で6年目。本当に活動を始めて良かったと思っている。「活動がマンネリにならないように、ボランティアグループを結成したい。それが活動のさらなる活性化につながると良いですね」と児島区長は笑いながら今後の目標を語った。



↑ みんなで地区の歴史を知ろうと開かれた「森区歴史探訪」

町南部に位置する森地区は、人口357人。
4歳以下人口9人、高齢化率31.4%の地域。
(平成23年7月末現在)

森地区

こじまきよかず
児島清和区長

